

## ★クーデターの企ての背景は＝ベネズエラのアレアサ外相インタビュー

米国の独立系メディア「デモクラシー・ナウ」は1月18日、「ベネズエラではクーデターが進行中なのか。ベネズエラ外相がマドゥーロ大統領排除をねらう米―ブラジルの策動を非難」と題して、訪米したベネズエラのアレアサ外相とのインタビューを報じた。司会のエイミー・グッドマン女史の質問に答え、緊迫する国内情勢の背景を詳しく語った。以下はその全訳。

**グッドマン** 米国と中南米の同盟国がベネズエラへの圧力を強めています。ニコラス・マドゥーロ大統領を排除する組織的な企てのようにみえます。昨年5月の大統領選挙は野党がボイコットするなかマドゥーロ大統領が勝利し、先週2期目の就任をおこないました。その数日前に野党のフアン・グアイード氏が議長に就任した国会は、マドゥーロ大統領を打倒するため投票をおこなって「篡奪者」と宣言しました。米国とブラジル他の諸国はこの動きを歓迎しました。米国のペンス副大統領は「大統領不在を宣言したグアイード氏の勇気ある決定を強く支持する」とツイートしました。10日のマドゥーロ大統領就任にあたってはポンペオ国務長官がグアイード議長の就任を祝福、ボルトン大統領補佐官は「米国は独裁者マドゥーロの違法な権力主張を認めない」と宣言しました。ブラジルの指導者となったボルソナロ大統領はさらにふみこんで、グアイード氏がまだ大統領を名乗ってもいないのに、彼をベネズエラの正式な大統領と認めるとのべました。リマ・グループの諸国はマドゥーロ政権の正統性を認めないと表明しました。メキシコだけは反対しました。

石油が豊富なベネズエラを標的にした米主導の企ては、20年前の1999年にチャベス大統領が就任した時にさかのぼります。昨年1月、ボルトン大統領補佐官は、ベネズエラ、キューバ、ニカラグアの3国を「独裁のトロイカ」とよんで非難しました。9月にはニューヨーク・タイムズ紙が、トランプ政権が反政府派の軍人たちと秘密の会合をもってマドゥーロ打倒を協議したと報じました。8月には小型ドローンによる攻撃がありましたが、マドゥーロ大統領は難を逃れました。彼は米国とコロンビアがウ和建てにかかわったと非難しました。2017年にはトランプ大統領がベネズエラにたいする軍事オプションを排除しないと発言しました。国連は2015年以来300万人がくにをはなれラテンアメリカに「かつてない移民危機」が起きていると述べています。

これらはベネズエラが長引く経済危機のなかでおきています。この危機は、一部は石油価格の下落によって、また一部は米国による制裁によって起きています。

国際通貨基金（IMF）によればインフレ率はこの一年間で百万%を超え世界最高になっています。食料品や医薬品の不足が伝えられています。国連の推計では2015年以来、300万人が国を離れ、「かつてない移民危機がおきている」と述べています。政治的な混乱が深まるなか、マドゥーロ大統領は国連に働きかけて、平和的な対話への助力をもとめました。ベネズエラのアレアサ外相は今週、国連のグティエレス事務総長と会いました。その機会に私はアレアサ外相にインタビューする機会を得ました。外相就任から3年になりますが、2013年から16年までは副大統領を務めました。私は最初に、ベネズエラでクーデターが仕組まれているのかどうか伺いました。

**アレアサ外相** もちろん、そうです。明らかです。（暫定大統領を宣言した）この男をベネズエラでは誰も知りません。町で「グアイードって誰」と聞いても誰も知らない。彼は米国から新大統領だといわせられているのです。自分でもそんなことは言わなかった。ポンペオ国務長が言っています。米州機構（OAS）のアルマグロ事務総長や他の国の大統領たちがいっているのです。彼らはベネズエラに政治紛争をおこそうとしています。軍部に反マドゥーロ宣言をだすようよびかけています。彼らが望んでいるのはベネズエラのクーデターです。戦争です。だがそうはなりません。

**グッドマン** 野党をまとめてマドゥーロに向かわせている米国の役割についてどう思いますか。

**アレアサ外相** 彼らが野党の親分です。野党にどうするか命じている。野党は米国務省の許可と承認なければ何もできません。少なくとも、ここ米国ではそうです。彼ら自身が告白しています。「大使館と協議しなければならない」といっています。それが実際です。彼らは自由ではない。独立してもいない。それでも（マドゥーロ）大統領は再度話合おうとしています。暴力デモで人々を焼き殺しているような過激野党ではなく、民主的な野党とは対話をしようといっています。しかし、ボルトン補佐官やポンペオ国務長官がマドゥーロは大統領ではない、違法な篡奪者だといっているのです。これはベネズエラにたいするクーデターです。

**グッドマン** 篡奪者とはどういう意味ですか。野党のグアイード国会議長がマドゥーロは篡奪者だというのは、打倒のための口実のように聞こえますが。

**アレアサ外相** 彼らはベネズエラの憲法をごまかしているのです。昨年5月の大統領選挙では1000万近い人が投票し、マドゥーロ大統領が600万票近くを

得ました。その選挙をなかったとっている。

**グッドマン** 野党は選挙をボイコットしましたね。

**アレアサ外相** そうです。野党だけではありません。米国もコロンビアもペルーもチリもラテンアメリカのネオリベラル政権は、選挙がおこなわれる3か月前から不正になるといっていました。そして結果を認めなかった。野党候補に選挙の登録をするなど圧力をかけたのです。それでも何人かが登録すると、撤退せよと圧力をかけた。しかし撤退しなかった。そしていま彼らは、選挙は不正でベネズエラには大統領がないから、国会議長が新大統領にならなければならないといっているのです。これらの政府と米国はこの筋書きを煽っているのです。とても危険なことです。

**グッドマン** 昨年11月にボルトン補佐官は、ベネズエラは「独裁トロイカの一部」といいましたね。その時、マドゥーロ大統領はボルトンがベネズエラ侵攻計画を指導していると非難しました。「独裁のトロイカ」とはブッシュ大統領が「悪の枢軸」といったことを思い出させますが。

**アレアサ外相** まさに「悪の枢軸」ですね。ニクソンやマッカーシーの冷戦時代の言葉の名残ですね。暗い歴史です。ナンセンスです。いま21世紀ですよ。主権国家を尊重しなければなりません。私たちには、自分自身で民主主義のモデル国家をつくる権利があります。でも米政府やとくにボルトンはマドゥーロ大統領への脅迫観念にとらわれているのです。ベネズエラの事態の背後にはすべて彼らがいます。昨年の8月4日に、ドローンを使ってマドゥーロ大統領を殺害するところでした。

**グッドマン** そのことです。歴史上はじめてドローンを使った国家元首への暗殺の企てでした。土曜日で最高裁判所の前の出来事でしたね。あなたもそこにいたのですか。

**アレアサ外相** 私はそこにいませんでしたが、閣僚のほとんどがいました。軍部やほかの瀬府機関もいました。突然ドローンが現れて爆発したのです。2機のドローンでした。犯人たちはコロンビアで訓練されていました。この情報をコロンビア政府に伝えました。どこで訓練され、だれだったか関係者の名前を伝えました。ドローンを持ち込んだ入国管理の当局者や、その名を伝えました。計画に加担したマイアミであった犯人たちの名前です。でも何もおこらなかった。

**グッドマン** その前の4月にリマでの中南米サミットでペンス副大統領が、マドゥーロを孤立させるためにもっとしなければならぬとっていました。これにたいしてマドゥーロ大統領は6月にペンス氏を「毒蛇」とよんで、政権転覆の策動を打ち破るとしていました。ペンス氏は何でこんなことをいうのでしょうか。

**アレアサ外相** ご承知のようにペンス氏は宗教的な人です。極右の出身です。そしてベネズエラ革命に脅迫概念をもっています。かれらはベネズエラの民主主義を回復しなければならぬとっていますが、われわれは民主主義です。20年間に25回の選挙をやりました。1998年、2000年、2004年、2006年、2009年、2012、2013年、2018年に大統領選挙をやりました。国民はなれています。大統領、国会議員、州知事や市長をえらびます。それだけではない。社会には共同体評議会が組織されて国民が決定します。毎日、民主主義を実践しているのです。革命前に民営化されていた大学へのアクセスを民主化しました。富裕者だけのものだった住宅のアクセスを民主化しました。医療のアクセスも民主化しました。全国に医師がいます。以前はキューバ人でいたが、いまはベネズエラ人の医師です。町をあるいてごらんください。ブロックごとに医師がいます。実際に草の根民主主義をつくろうとしているのです。そこが彼らの気にいらぬ。ラテンアメリカの諸国から望むところではないからです。

**グッドマン** 制裁がベネズエラ経済に及ぼしている影響についてはどうでしょう。ヘンリー・キッシンジャーがいますね。民主党からも共和党からも相談を受けている。彼が半世紀も前ですが、アジェンデ政権下のチリ経済に悲鳴をあげさせたかったといました。半世紀にわたって米国はキューバを経済封鎖しています。経済の圧力やサボタージュはベネズエラではどうなのでしょう。昨年11月に米議会調査局が、米国が現在ベネズエラにおこなっている経済制裁についての概観を発表し、トランプ政権が新たな制裁を検討しているとのべました。しかし報告は同時に次のようにしています。「強力な経済制裁はベネズエラ政府の行動に影響を与えうるが、否定的な影響や予期しない結果をもたらしかねない」と。分析家たちは、強力な経済制裁が食料や医薬品の不足や貧困、出国の増大など困難な人道状況をさらに悪化させかねない懸念しています。ベネズエラの市民グループの多くも人道状況を悪化させる制裁に反対しています。これはベネズエラの大統領がいつているのではなく、米国の議会調査局がいつているのです。

**アレアサ外相** 一方的な「制裁」に人々は苦しんでいます。これは国連安保理で承認されておらず、合法ではありません。ある政府が一方的に押し付けた封鎖です。そのために食料や医薬品の輸入が難しい。交換通貨としてのドルが使えないのです。転換しなければならない。ドルからユーロにかえてようやく、子どものワクチンとか HIV 治療の 2 年間分を輸入しています。数字をあげますと、一年以上続いたいわゆる「制裁」でたぶん 200 億ドルを失いました。

**グッドマン** これらは公然の「制裁」ですね。非公然の制裁はあるのですか。

**アレアサ外相** もちろんです。公式なものほかに、企業にたいしてベネズエラと取引するなと強制しています。米国にあるベネズエラ企業の C I T G O を接收しようとしています。この企業の利益を食料や医薬品の購入にあてようとしてもできないのです。

**グッドマン** C I T G O はベネズエラの国営石油企業で米国内では冬場に貧困層の人々に安価な石油を供給して支援してきました。

**アレアサ外相** 米国でもこの事業を続けたいと思っています。利益の大半はベネズエラに送金されるべきものですが、それができないのです。ブロックされて米国の銀行に留め置かれている。16 億ドル以上です。また仲介している欧州のユーロクリアという企業の資金が欧州でブロックされています。「制裁」のためです。

**グッドマン** ロシアのラブロフ外相が米国のベネズエラ干渉に懸念を表明しました。この意味はなんでしょうか。またロシアは 12 月に 2 機の核攻撃能力をもったブラックジャック爆撃機をベネズエラに派遣して共同訓練をしました。

**アレアサ外相** ロシアは 16 年間以上にわたってベネズエラと友好関係をもっています。私たちは世界は多極化して、世界にはいくつかのセンターがあると考えています。米国だけではない。米国は 20 年前にベネズエラとの一切の軍事協力を停止しました。それでロシアと軍事協力しています。爆撃機は 2013 年にもきていますが、何もおきませんでした。ところが今年はまるで我々が米国を爆撃しようとしていかのような取り上げ方をされています。ナンセンスです。ロシアと協力するのは我々の権利です。中国や他の諸国ともです。ラブロフ外相は、まさに米国がやっていることを正確にのべたのです。彼は知っているのです。米国やそのほかの国が人々やメディアを欺き、ベネズエラの憲法さへ捻じ曲げて、選

挙で選ばれたわけではない男を押し付けようとしていることを。

**グッドマン** 大量流出の問題があります。国連難民高等弁務官が、ベネズエラは過去に例のないほどの難民危機だといっています。国連の推計では、2015年以來、300万人が流出し、ことしはなお200万人が離れるとみられています。百万人がコロンビアに、ペルーに50万人、エクアドルやアルゼンチン、チリ、パナマ、ブラジルと、みんな大変な数です。なぜなのでしょう。

**アレアサ外相** 最初に、ベネズエラには何人のコロンビア人が住んでいるかご存知ですか。600万人です。ペルー人とエクアドル人が100万人以上です。スペイン、イタリア、ポルトガル、アラブ諸国の人々が200万人以上です。もちろん移民があります。ブロックされていて医薬品や食料の入手がままならない。ハイパーインフレがあります。通貨の交換レートですが、ベネズエラの国家当局や中央銀行がきめているわけではないのです。マイアミのウェブページです。マドゥーロ大統領の就任前は1ドル1000ボリバルでした。クレージーです。就任の日、倍になりました。2000ボリバルです。これは経済の論理ではない。すべて政治です。戦争です。彼らはわが国民にたいして通貨を使って（戦争をしかけて）いるのです。300万人の人々が心配です。300万人でなく多分ベネズエラ人は100万人です。多く的人是ベネズエラに住んでいたコロンビア人で自分の国へ帰ったのです。私たちは彼らもベネズエラにかえって来てほしいと思っています。ベネズエラ人もコロンビア人もベネズエラに住んでいた人はみんな帰ってほしい。

**グッドマン** でも百万%のインフレではねえ。

**アレアサ外相** そのIMFの数字は正確でないと思います。たぶんその10分の1程度だと思います。とても難しい問題です。このインフレは外国から持ち込まれている。ウェブページで作られているベネズエラへの経済戦争なのです。我々が対策をとらなかつただけではないのです。事態が国民にとってとても困難なものになっています。

**グッドマン** 食料や医薬品の不足について、政府の責任を感じていますか。

**アレアサ外相** もちろん我々は完全ではない。米国もアルゼンチンも完全ではないでしょう。責任は我々にあります。しかしベネズエラでは問題の大半は封鎖と経済戦争のために引き起こされています。それでも事態は2016年より改善し

ました。食料も医薬品も増えました。失業は6%以下です。もっとあります。学校は一つも閉鎖されていない。大学も病院も閉鎖されていません。キューバ人の医師を放逐もしていません。人々を守るためです。この4年間に200万500戸の住宅を提供しました。制裁や封鎖にもかかわらずこれだけの投資をしたのです。

**グッドマン** ヒューマン・ライツ・ウォッチやベネズエラのフォロ・ペナルというNGOが報告書をだして、情報治安当局が反政府活動をした軍人を捉えて拷問をしていると非難しました。反政府陰謀の情報を白状させるために拷問し、ひどい人権侵害がおこなわれたと。

**アレアサ外相** これもベネズエラへの情報戦争ですね。もちろん拘束者はいますし、彼らは昨年、大統領の転覆計画に加わった。しかし拷問はありません。ベネズエラでは前世紀のことです。以前は拷問がおこなわれていました。街頭で学生が毎週殺されていきました。弾圧がありました。しかしボリバル革命で止まりました。もう起きていません。これらのNGOは米国政府の米国国際援助局（USAID）から報酬をえています。報酬をもらっているから政府の言う通りのことをいうのです。

**グッドマン** 中南米の他の指導者のことをうかがいます。ブラジルの極右のボルソナロ大統領がアルゼンチンのマクリ大統領とあって共同してベネズエラに反対することを話し合いました。一方、メキシコではロペス・オブラドール大統領が反ベネズエラの諸国には加わろうとしていません。米国と一体になったブラジル・アルゼンチン連合をどう思いますか。

**アレアサ外相** さっきのべたように、ラテンアメリカは会社のようなものです。トランプは社長、これらの指導者はみんなビジネスマンで取締役です。トランプ大統領に引き上げてもらいたいと思って命令に従っています。彼らは米国の言う通りにしなければならないといってきました。マドゥーロを孤立させ、政権を否認して、打倒するために。その通りのことをやっています。ブラジルのことが心配です。この男は極右で、ファシズムがまた現れた。ラテンアメリカの歴史から消えたと思われていたものが、再び起きている。この男は女性を憎み、黒人を憎み、同性愛者会を憎んでいます。ベネズエラを憎む人種差別主義者で、貧しい人を憎んでいます。前の独裁時代を愛しています。

**グッドマン** ベネズエラ支持の立場をとるロペス・オブラドールはどうか。

**アレアサ外相** メキシコ大統領は正しいと思います。国際法を尊重し、相互に尊重しあわなければならない（とっている）。つまり国連に入るのはなぜかという、他国の内部問題を尊重するからです。国家間の平等を尊重するからだし、どの国も他国に介入する権利はないからです。米国がするのはそうではない。イラクで戦争しました。トランプ大統領は、米国はイラク侵攻したが。事態はフセイン時代より悪くなった、遺憾だといいましたが、リビアでも同じです。

**グッドマン** 同じことがおきているとみているわけですね。とても類似性があります。ブッシュ大統領が新語をつくりました。あるいは側近たちが作って彼にいわせた。2002年の「悪の枢軸」という言葉です。これがイラク侵攻の根拠となりました。いま米国は「独裁のトロイカ」をさかんいっています。そしてベネズエラとイラクの類似点は3文字、オイルです。面白いことに、何年も前、米国はイラク侵攻にあたって当初、「イラク解放作戦」(O I L)となづけました。ところがこの言葉の短縮形は「オイル」なので、変えなければならなかった。これが米国なのです。この類似点は何なのでしょう。世界で最も重要な原油供給国に焦点をあわせている。

**アレアサ外相** 確実にいえるのは、ベネズエラにバナナしかなかったら、こういう干渉はおこらないでしょう。しかしベネズエラには石油があるのです。ガスがあるのです。金もあり、銀もあり、ボーキサイトもあるのです。鉄鋼もあり水もある。つまり豊かな国なのです。それがこの国を彼らが再び支配したいと思っている理由です。1998年までしていたように、かれらはベネズエラの資源を支配したいのです。だからマドゥーロ政権を倒そうと躍起になっている。米国の資本主義を発展させるためにこの資源が欲しいのです。

**グッドマン** 起こるとしたらクーデターはどんな様相になるとおもいますか。

**アレアサ外相** 起こりえないと思います。憲法を守らなければならないし、国民の平和を守らなければならないからです。ベネズエラ軍は憲法の味方になり、ささえています。その結果、正当な大統領としてマドゥーロ氏を支持しています。疑問の余地はない。だからおこらないでしょう。しかし彼らが起きて欲しいと思っているのは、軍人のなかのだれかが、マドゥーロはもう大統領ではないということです。そして憲法の支えがなくても彼を大統領に指名することでしょう。そうすれば彼らはベネズエラ国営石油会社(PDVSA)を支配できる。つまり資

源を握れる。彼らはそれができているのですが、不可能です。他の国ではできるかもしれないがベネズエラでは不可能です。

**グッドマン** フロリダのマルコ・ルビオ議員のツイートがはいつてきました。彼はいつています。ベネズエラ軍のメンバーを支持しなければならない。かれらは憲法を守ると宣言し、国会議長のアグアードを暫定大統領と認めた。

**アレアサ外相** ツイートにのせられたビデオにでていいるのは、軍人とみられていいますが、ペルーに住んでいいます。このビデオは昨夜現れました。見世物の一部なのです。たぶんペルー政府に買収されたのでしょ。それはわかりませんが、ペルーのテレビにでました。ベネズエラではないのです。それがマルコ・ルビオの望みでしょ。ベネズエラで起ってマドゥーロは大統領でないと宣言してほしかった。しかしそうはなりません。もし起きたとしても小さなグループで、我々はどんなシナリオにも準備はできていいます。しかし彼らはクーデターを望んでいいます。ボルトンやペンス、トランプやマルコ・ルビオは望んでいいます。

**グッドマン** 報道の自由について質問させてください。昨年 12 月に 75 年の歴史をもつエル・ナショナル紙が発刊を停止しました。ベネズエラに残っていた最大の野党系新聞でした。「ジャーナリスト保護委員会」(CPJ)は、紙の確保に政府が加えた制限のためだと報告していいます。CPJによれば、この政府の制限によって 20 以上の出版物が出版できなくなりました。CPJは「エル・ナショナル紙の発刊停止は政府がかつてなく拡大していいる批判報道の抑圧と独立メディアの声の制限の犠牲者だ」といつています。

**アレアサ外相** いまの経済困難と問題が起きる前は、新聞用紙の輸入に政府が補助金をだしていいました。しかしいまはプライベートな新聞は自分で輸入しなければならなくなりました。それがより高価になった。それがエル・ナショナルにおきたのです。しかしエル・ナショナルのソーシャル・ネットワークはみることができます。ツイッターをみてください。グーグルで「マドゥーロを殺せ」「悪漢マドゥーロ」といつた言葉がベネズエラ中にあふれていいます。野党系のラジオ、新聞、テレビ、おそらく民間メディアの 70%は反政府で、こいう事態を起こそうと煽っていいます。それらはベネズエラの伝統的な富裕層の家族が保有していいるからです。ベネズエラに報道の自由がないとか言論自由がないとかいいうのは、見世物の一部です。

**グッドマン** しかし 24 もの新聞が閉鎖といいうのはどうなのでしょう。

**アレアサ外相** それは事実ではありません。エル・ナショナルは倒産したのです。金がなくなりました。新聞の売り上げが十分でなくなって自分で新聞用紙を手当てできなくなったのです。

**グッドマン** 外国の人たちにボリバル革命をどう説明しますか。あなたはマドゥーロ政権の外相で、故チャベス大統領の娘婿ですから、歴史をのべてください。

**アレアサ外相** ボリバル革命の歴史は独立のプロセスです。人民が権利を取り戻す、医療や教育、住宅や文化を享受する権利、国民のアイデンティティと主権をとりもどす過程です。それがベネズエラ革命です。社会を民主化し、人権を実際に人民のものにする。それをやっています。石油や他の天然資源の富を使って国民に投資し、リンカーンのいった（国民の国民による国民のための政治）が私たちの目標であり、起こったことです。しかし、それらの資源はもう米国のものでも、世界の他の利益集団のためではない。そこで彼らはチャベスを倒そうとし、いまマドゥーロ政権を倒そうとしているのです。彼らは続けるでしょう。マドゥーロ大統領はトランプ大統領との対話を望んでいます。そうなれば問題のいくつかはたぶん解決すると思います。お互いに顔を合わせて話合えば、両者は共存できることがわかり、何らかの協定を結ぶことができると確信します。しかしとんでもない（と彼らは言っている）。私はポンペオ国務長官と会談したことはありません。彼は外相ですよ。それどころか国務省の誰ともあったことはありません。彼らはベネズエラの当局者とは対話を望まないのです。どういうことでしょう。野蛮です。

**グッドマン** 最後の質問です。昨年 9 月に、アルゼンチンやカナダ、コロンビア、チリ、パナマ、ペルーが国際刑事裁判所にベネズエラの調査をするよう訴えました。ヒューマン・ライツ・ウォッチはこの動きに拍手を送り、次のようにのべました。「ヒューマン・ライツ・ウォッチの調査によれば、2014 年と 2017 年の 2 つの弾圧で、治安部隊が市民にたいする拷問など組織的な人権侵害をおこなった。2017 年の 4 月から 7 月の間、5400 人以上を拘束し、激しく殴打し、電気ショックや窒息、性的暴行や他の野蛮な手段で拷問した」

**アレアサ外相** それも見世物の一部です。ベネズエラの人権状況の記録をアルゼンチンやブラジルなどの諸国がやっていることと比べてみてください。彼らは国際機関を悪用してベネズエラの攻撃に使っているのです。国連人権委員会のバチェレーコミッショナー（元チリ大統領）の来訪を待っています。マドゥー

ロ大統領が招待しました。彼女自身の目で見てもらいたいと思っています。もちろん、これはベネズエラへの戦争の一部ですが、それは過去のものになっていくでしょう。これらの右派政府はいずれ終わるでしょう。今年か来年か、そしてベネズエラの革命は続きます。

**グッドマン** メキシコを除いて、ラテンアメリカに右翼の波がどうしておきているのでしょうか。

**アレアサ外相** たしかにメキシコやボリビア、ニカラグア、カリブ海諸国は別です。人民の政府があります。ウルグアイも進歩的政府です。しかし、それはサイクルの一部です。米国は9・11以降、中東に集中し、すべての資金を投入しました。そうしたらラテンアメリカで進歩的政府が多数になってしまった。そして振り向いていったのです。「いったいここはどうなっているのだ。何とかしなきゃならない。ホンジュラスでクーデターをおこさなければならない。セラヤ（大統領）が進歩的政府をやろうとしている。右派の候補者に資金をだそう」。それでこれまで成功を取めた。しかし人民はこれを見ています。彼らが状況を変えるでしょう。なぜならラテンアメリカでは人民が権力につく権利をもっているからです。（了）

デモクラシー・ナウは続いて1月25日、エイミー・グッドマンがおこなったインタビューで前回の放送しなかった部分を報じました。以下はその部分です。

**グッドマン** 米国や他の国からのマドゥローロ政権への圧力が強まっています。

**アレアサ外相** いや、これは1999年からずっとおきていることです。チャベス司令官も独裁者だ、社会主義者だといわれてきました、2002年のクーデターや石油産業のサボタージュの背後には米国がいました。なぜこうしたことが起きているかといえば、私たちがモデルをかえ、新しい民主主義の社会をつくろうという目標をもっているからです。私たちはこれを新しい世紀の社会主義とよんでいます。私たちにはそれをおこなう権利があります。私たちは独立した主権国家です。ここ米国では、国民ではなく権力をもって支配しているエリートたちがラテンアメリカは自分の裏庭だと考え、自分たちのモデルを押し付けたいと思っています。（他の国の）大統領たちもまた、ビジネスマンで米大統領の命令にしたがっている。しかし私たちは違うのです。自分自身の社会をつくろうとしています。新しい平等の関係をもった社会です。医療や教育、住宅や文化を人々が享受できる社会です。それが私たちの闘いです。いまおきているのは、米国のエ

リートやその衛星国がこういうたたかいにストップをかけるため、ベネズエラ政府を孤立させようとしているのです。

これはむつかしいたたかいです。私たちは、マドゥーロ大統領もあらゆる方策を探し、対話の道を探りました。昨年ドミニカ共和国で同国の大統領とスペインのサパテロ元大統領の仲介で野党との話し合いがおこなわれました。合意がなり、協定にサインしようとしたときに、野党側が米務省からの指令を受け、サインしなかったのです。いくつかの野党が選挙参加をとりやめました。そしていま選挙は不正だった、マドゥーロは大統領ではないといっているのです。これこそまさにクーデターのプロセスであり、米政府によって煽られ、財政的にささえられているものです。

**グッドマン** メキシコのオブラドール大統領はベネズエラ支持の立場なのですか。

**アレアサ外相** いまAMLO（オブラドール大統領）はラテンアメリカにとって大変重要な人物です。メキシコはもっとも重要な国の一つですし、米国と国境を接している。新たな政権ができましたが、彼らも主権国家です。彼らはベネズエラだけでなくニカラグアやキューバ、その他の国をも支援しようとしています。ラテンアメリカのすべての国と良好な関係をもちたいと考えています。

**グッドマン** オブラドール大統領はマドゥーロ政権の正統性に疑問をはきむりマ・グループの立場を支持していませんね。彼は、外交問題では不干渉の原則を尊重していくと明確に述べています。他国がメキシコ内部の問題に介入することものぞまないと。

**アレアサ外相** すべての国がそうでなければなりません。他国に介入はできない。米国でもトランプの選挙にロシアが介入したといわれています。それはよくないことです。おきてはならないことで、私はなかったと思っています。しかし米国は毎日、毎時、ベネズエラの問題に加入しています。キューバやニカラグア、ラテンアメリカのすべてに介入している。ロシアの介入はけしからんが、米国のラテンアメリカ介入はよいなどということがあるのでしょうか。フェアではありません。メキシコ大統領のいうとおりです。国際法の原則をお互いに尊重しなければなりません。つまり国連に加入するなら、それは他国の内政を尊重し、各国の平等を尊重するからです。他国に介入する権利はないからです。米国のしていることはそうではない。イラクで戦争をした。トランプ大統領は米国がイラクを

侵略したのは遺憾だといった。サダム・フセインの時より事態が悪化したからです。リビアも同じです。

(以上)